



# “Pure CS” Project Photo Letter



No. 4, 31. October, 2018

6月から続いた雨期も10月に入りようやく明けて、プロジェクトサイトのエイヤワディー地域では収穫の時期になりました。ミャンマーではここ2～3年日本製コンバインハーベスターの普及が急速に拡大し、機械による収穫が当たり前の農村風景となってきました。プロジェクトでは質の高い保証種子 (CS)の生産ができるよう圃場審査を中心に技術移転を行いました。

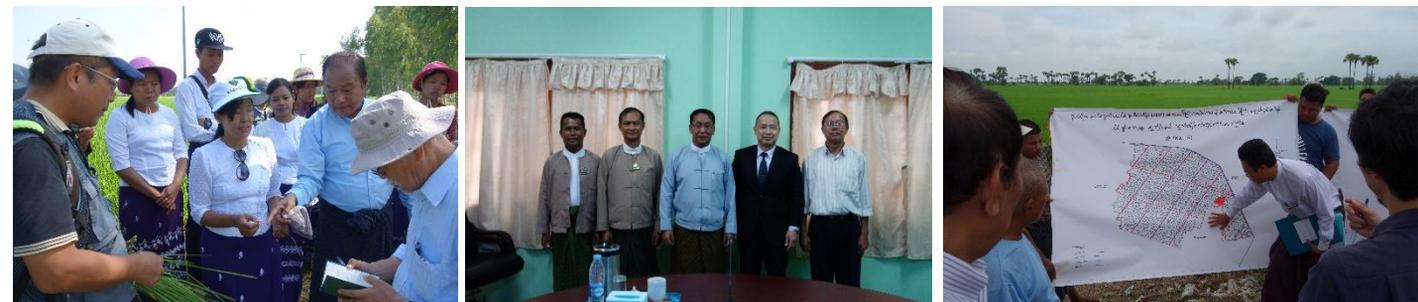
**普及員技術研修**：CS生産技術と品質の向上を目的として、南部エイヤワディー地域パテイン、ヒンタダ及び北部シュエボー県の3か所で、本年6月からイネの生長に合わせて第3回目の研修を行いました。1回目は健全な苗の育成、2回目は移植及び本田の品質管理、そして今回は種子の品質管理で重要な圃場審査について理論と実践を研修しました。夫々の会場では40～50人の普及員や種子関係者が参加しました。(写真：左から、シュエボー研修・講義、パテイン研修・ワークショップ、ヒンタダ研修・圃場実習)



**ステークホルダー会議**：本年1月からCS生産農家、コメ生産農家、精米業者及び普及員等を対象にCSの販売・普及促進を目的とした会議を、南部エイヤワディー地域パテイン、ヒンタダ、ミャウンミヤ、ピヤポン及び北部シュエボー県の5か所で開催してきました。第3回目は、CS売買で中心的役割を担うと期待される精米業者を対象に、CSを使用したコメ生産の優位性に対する理解促進のため、CS生産圃場、CS利用コメ生産圃場視察を企画しました。(写真：左から、CS圃場視察、意見交換会、精米業者聞き取り調査)



**その他の活動**：写真：左から、① 圃場審査制度を改善し、審査精度を向上させることを目的として、圃場審査の実態を把握すべく現地調査を各地で行いました。② エイヤワディー地域の農業大臣(写真：中央)を表敬訪問してJICAプロジェクト活動への協力を要請しました。大臣のプロジェクトに対する期待は大きく、責任の重さを再確認しました。③ 来年シュエボー郡で実施予定のJICA水管理営農改善プロジェクト詳細計画策定調査へ参加し、当種子プロジェクトとの具体的連携内容を確認しました。



10月23日は雨期明けの仏教行事である雨安居明けの日です。イネの収穫も始まり、結婚式や祝い事、旅行等人々の日常生活も活発になります。HP (<https://www.jica.go.jp/project/myanmar/O29/index.html>) も開設しましたのでご覧ください。(編集委)